

ブレーカー配線チェッカー

SEC-960

取扱説明書

このたびは、ブレーカー配線チェッカー(SEC-960)をお買い上げいただきましてまことにありがとうございます。
ご使用にあたっては本取扱説明書をよくお読みいただき、正しくご使用ください。お読みになった後は、大切に保管してください。

ご使用前に本書を必ずお読みください



警告

- ご使用前に検電機能、ブレーカー探査機能について既知の電源で確認してください。
- 検電 / ブレーカー探査の際は周囲の状況に十分注意してください。感電の恐れがあります。
- 本器を無断で改造したり分解したりしないでください。重大な事故の原因になる恐れがあります。



注意

- 使用を開始する前に本器の外観構造等に異常がないかを点検してください。
- 被覆検電機能において接地されていない金属管・ケース等は誘導電圧で動作することがあります。
- ブレーカー探査が終了すれば速やかに送信器のプラグを抜いてください。
- 雨中では危険ですので使用しないでください。

ご使用上の注意

- 保管する場合は直射日光の当たらない乾燥したところに保管してください。
- 本説明書に記載の用途以外には使用しないでください。
- 子供に触れさせないでください。

特長

- 活線状態でコンセントとブレーカーの配線経路を探知できる
- 5つの機能
 - ①直接検電：コンセント等の充電部に受信器のゴム検電部を直接接触させて検電ができる
 - ②被覆検電：ケーブルの被覆の上に受信器のゴム検電部を当てるだけで検電ができる
 - ③導通：導通チェックができる
 - ④極性：電池の±の極性チェックができる
 - ⑤ブレーカー探査機能：送信器を併用することにより活線状態で配線経路の探知ができる
- 音と光でわかりやすい
- 収納ケース付



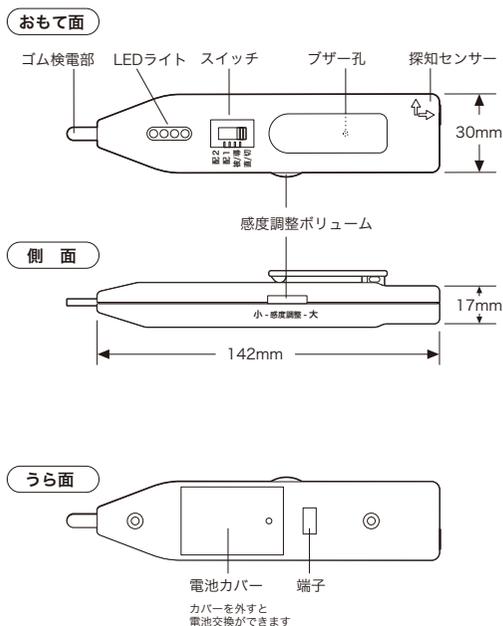
ジェフコム株式会社

〒579-8014 東大阪市中石切町3-13-16

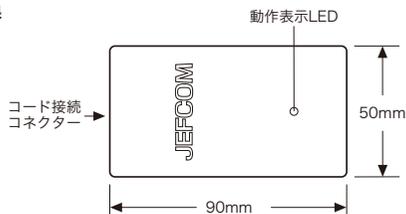
ML1ADM

セット内容・各部名称

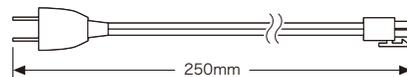
●受信器



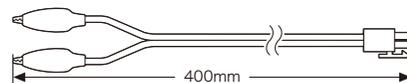
●送信器



●ACプラグ付コード



●クリップ付コード



●収納ケース

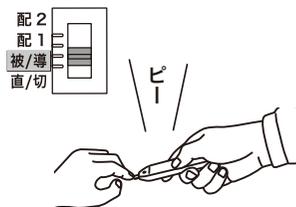
●乾電池(動作確認用)

CR2032×1

ご使用前の確認

- 受信器のスイッチを **被/導** にして、端子を親指で触れながら、もう一方の手でゴム検電部を触れると、1個のLEDが発光、ブザーが「ピー」と発音します。この時、動作しない、発光・発音が弱い場合は電池を交換してください。
- 既知電源で動作確認を行い、感度を確認してから使用してください。
- ご使用後はスイッチを **直/切** にしてください。
- オートパワーオフ機能で無操作3分で自動的に電源が切れます。

△注意 温湿度の状態により、反応しにくい場合があります。



使用方法

検電器機能



注意

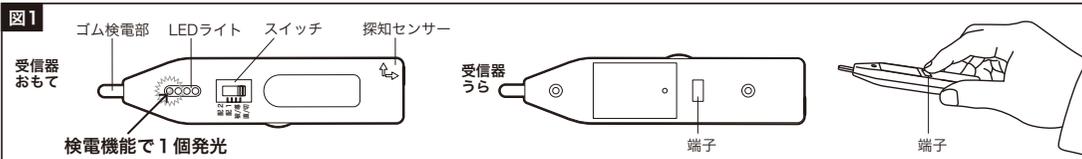
(図1参照)

検電器機能は受信器のみ使用します。

検電器機能は受信器の端子に触れながら使用します。

検電器機能で動作するLEDライトは、受信器先端部の1個のみです。

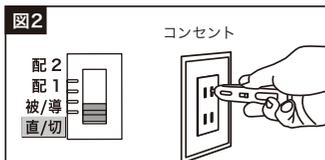
図1



1. 直接検電 (直接導体に触れて検電する場合)(図2参照)

- ① スイッチを **直/切** にします。
- ② 端子に触れながらゴム検電部をコンセント等の充電部の端子に直接あてます。
- ③ 非接地側(活線側)の導体に触れた場合は、ブザー連続音・LED連続点灯します。
- ④ 接地側の場合は反応しません。

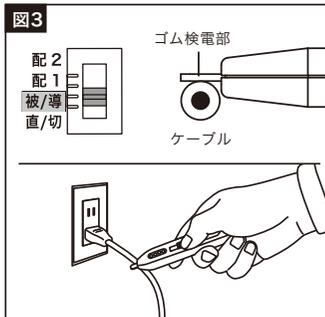
図2



2. 被覆検電 (被覆の上から検電する場合)(図3参照)

- ① スイッチを **被/導** にします。
- ② 端子に触れながらゴム検電部の根元をケーブルの被覆にあてます。
- ③ 非接地側(活線側)の導体に触れた場合は、ブザー断続音・LED点滅します。
- ④ 接地側の場合は反応しません。

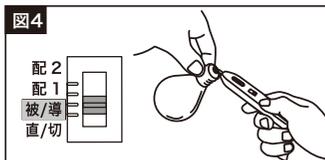
図3



3. 導通チェック (図4参照)

- ① スイッチを **被/導** にします。
- ② 端子に触れながら片方の導体に手を触れると共に、もう一方の導体にゴム検電部をあてます。
- ③ 導通している場合は、ブザー連続音・LED連続点灯します。

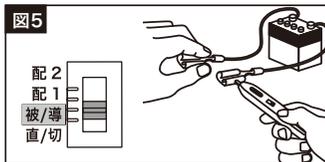
図4



4. 直流電源の極性チェック (図5参照)

- ① スイッチを **被/導** にします。
- ② 端子に触れながら片方の導体に手を触れると共に、もう一方の導体にゴム検電部をあてます。
- ③ ゴム検電部を当てた部分が(+)極性の場合は、ブザー連続音・LED連続点灯します。(−)極性の場合は反応しません。

図5



△注意 DC極性チェックの動作電圧は、1.2～24Vです。

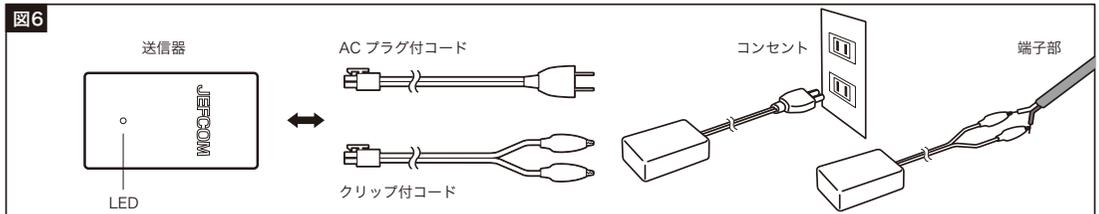
使用方法

ブレーカー探査機能

活線状態において、そのコンセントに対応するブレーカーを探したい場合に送信器を併用して使用します。

「送信器側」 (図6参照)

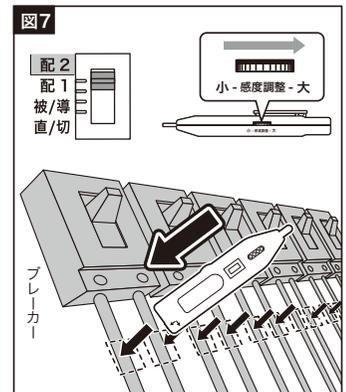
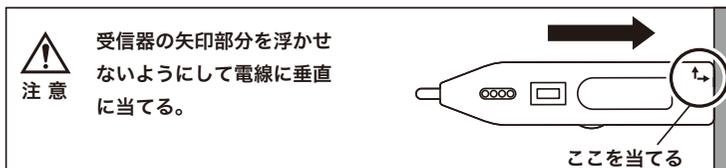
- ①送信器にクリップ付コード、又は AC プラグ付コードを接続し、探知したい活線状態のコンセント・端子部に接続します。
- ②電源が入ると送信器のLEDが点滅します。



「受信器側」

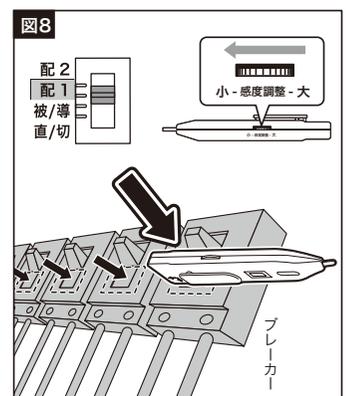
1. ブレーカー接続電線での探査 (図7参照)

- ①スイッチを**配2**にします。
- ②感度調整ボリュームを**大**にします。
- ③分電盤の扉を開け、ブレーカーに接続されている電線に受信器の探知センサー部分を順次当ててください。
- ④複数個のブレーカーが反応する場合は、感度調整ボリュームを**小**の方に少し回して再度③の操作を行ってください。
- ⑤③と④の操作を繰り返し行う。
- ⑥LEDの点灯個数が多く、断続音の大きいものが該当するブレーカーです。

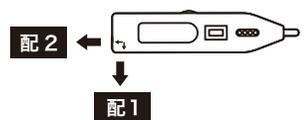


2. ブレーカー表面での探査 (図8参照)

- ①スイッチを**配1**にします。
- ②感度調整ボリュームを**小**にする。
- ③分電盤の扉を開け、ブレーカーのハンドル部に受信器を横にして、探知センサー部分を順次当ててください。
- ④複数個のブレーカーが反応する場合は、感度調整ボリュームを**大**の方に少し回して再度③の操作を行ってください。
- ⑤③と④の操作を繰り返し行う。
- ⑥LEDの点灯個数が多く、断続音の大きいものが該当するブレーカーです。



注意 受信器を横に寝かせた状態で反応しない場合は、1のように受信器をブレーカーに直角に当てて、スライドスイッチ**配2**で探査を行ってください。

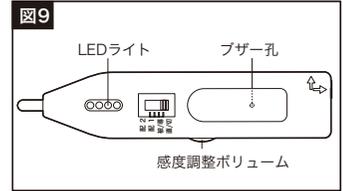


使用方法

ブレーカー探査機能（つづき）

「判定」(図9参照)

- ・LEDライト部の点灯個数が最も多く点滅した位置のブレーカーが該当するブレーカーです。
この時、ピッ・ピッというブザー断続音も判定の参考になります。
- ・LEDの点灯個数で判定が付かない場合は、感度調整ボリュームを回してLEDの点灯個数による差が判るように感度を調整してください。
- ・判定はLEDの点灯個数が多く、断続音の大きい位置のブレーカーが該当するブレーカーです。



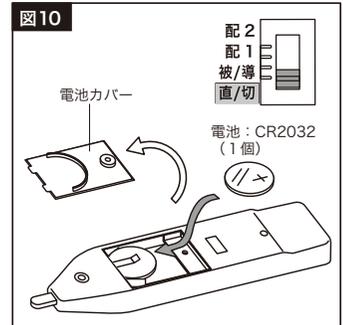
注意

- 電源ラインにノイズの発生する機器が接続されている場合、LEDランプが点灯したり、ブザーが（ピーピー音等）鳴ります。探査信号の周期的な断続音（1秒間に約2回）に注意しながら判定してください。
- 探査信号よりも大きいノイズが乗っている場合は探知できません。
- 高効率型蛍光灯などの入力側に「コンデンサー」の付いた機器が付加されている場合は、ブレーカーの特定ができない場合があります。

電池の交換方法

使用電池：コイン形リチウム電池 CR2032×1

1. スイッチを「切」にします。(図10)
2. 電池カバーを外します。
3. 電池を外し、新しい電池と交換します。電池を装着する時は+/-の間違いないようにしてください。
4. 電池カバーを取付けます。



付属の電池は動作確認用です。
ご使用時は新しい電池をご用意ください。

仕様

受信器	共通仕様	使用電池	コイン形リチウム電池 CR2032×1(動作確認用付属)
		使用温度範囲	0°C～40°C
		寸法	142×30×17mm
	検電機能	使用電圧範囲	直接検電・被覆検電 AC80V～300V 50/60Hz
		付加機能	導通チェック 10MΩ以下 DC極性チェック 1.2V～24V
		動作表示	赤色LED点灯 ブザー鳴動
		絶縁耐力	AC2000V 1分間(ゴム検電部～グリップ間)
ブレーカー探査機能	信号出力形式	信号電流による磁束検出	
	出力	4点のLEDランプ点灯表示、ブザー鳴動	
	探査感度	感度調整ボリューム	
送信器	使用電圧範囲	DC/AC 15V～264V	
	探査信号周波数	5KHz	
	使用温度範囲	0°C～40°C	
	寸法	90×50×31mm	